

# 進化経済学会

ニュースレター No. 36

July 2014

進化経済学会事務局 evoeco-post@bunken.co.jp  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター  
TEL : 03-5389-6493  
FAX : 03-3368-2822



+++++

第 18 回金沢大会の開催報告  
2013 年度若手セミナー開催報告  
理事会報告  
総会報告  
会計報告  
2013 年度部会報告  
第 19 回小樽大会開催アナウンス  
オータムカンファレンス案内  
会員異動

+++++

## 第 18 回金沢大会開催報告

第 18 回大会実行委員長 瀬尾 崇 (金沢大学)

2014 年 3 月 15 日 (土)、16 日 (日) の両日、進化経済学会第 18 回金沢大会の年次大会が金沢大学角間キャンパスにて開催された。北陸地方での開催は 2003 年度の第 8 回大会 (於: 福井県立大学) 以来、ちょうど 10 年ぶりの開催となった今年度の大会は、「進化経済学の原点に還る」をオータムコンファレンスおよび年次大会の共通テーマとして開催された。

昨年度の第 17 回中央大学大会と同様、会員からセッションの企画を募り、6 セッションが企画された。また、口頭報告の申込みも 50 報告の応募があり、数件の辞退があったものの、新たに入会された会員からの申込み寄せられ、最終的に 2 日間で 47 の報告が集まった。今回は、海外からの招待講演や英語等による国際セッションはなかったものの、現在の会員の問題意識や関心を見聞することを通じて、本学会の現状の一端を感じることができた大会であったように思われる。ポスターセッションに関しては、今回 1 フロアの 1 通路での開催ということで、途中で足を止め、ポスターをご覧になり、説明を聞かれた参加者も比較的多かったように思われる。例年と同様、大会 2 日目の昼休みにおこなわれたショート・プレゼンにも多数の参加者が集まり、活発な質疑応答がおこなわれた。

今回の年次大会参加者は、事前申込と当日申込を合わせて一般会員 106 名、学生会員 21 名であった。交通の便の悪い地方都市での開催にもかかわらず、例年と変わらない参加者数であった。大会 1 日目に開催された懇親会の参加者も約 80 名と盛況であった。

今回の第 18 回大会は会員 2 名というあまりにも心もとない実行委員会のもとでオータムコンファレンスと年次大会を開催させていただいた。無事、つとめを果たすことができたのも、多くの方々にご参加いただいたのはもちろん、特に、北陸先端科学技術大学院大学の大学院生と金沢大学の学部生および院生のサポートのおかげである。われわれ実行委員会の任務がすべて終了するにあたって、あらためて御礼を申し上げる所である。

最後に、今回の大会では、例年 CD-ROM で作成していた『進化経済学論集』を、表紙、目次、ページ番号を付けたうえで PDF ファイルにして保存し、紙媒体の発表論文集は、大会開催校である金沢大学図書館に納めるとともに、学会 Web サイトからダウンロードできるように保存した。必要な場合は、下記 Web サイトから取り込んでいただきたい。

<http://www.jafee.org/conference/EvoecoKazanawaJournal2.zip>

## 2013 年度若手セミナー開催報告

吉井哲 (名古屋商科大学)

若手セミナーは、2014 年 3 月 15 日 10 時より金沢大学角間キャンパス北地区第二講義棟 201 講義室にて行なわれた。若手向きセッションは、例年オータムコンファレンスの前日にサマースクールとして開催されていたが、2013 年度は参加者の利便性を考慮し、本大会当日に若手セミナーとして開催された。その甲斐があつたか、参加者は約 40 名となり非常に盛況であった。

若手セミナーの担当委員は一新され、瀬尾崇会員 (金沢大学)、稲水伸行会員 (筑波大学)、吉井哲 (名古屋商科大学) が担当することとなったが、今後 3 年間は英文ジャーナル投稿に関する若手向けの企画を行なう。2013 年度のセミナーはそのための基礎固めとして、英文での論文執筆・投稿方法、論文の海外アピール方法に重点を置き、以下のプログラムを組んだ。

1. 進化経済学会英文ジャーナルの状況 講師：有賀裕二 (中央大学)
2. 英文ジャーナルへの投稿指南 講師：佐々木啓明 (京都大学)
3. ペーパーのアピール方法 (1) 講師：江頭進 (小樽商科大学)
4. ペーパーのアピール方法 (2) 講師：吉井哲 (名古屋商科大学)

まず編集委員を代表して有賀会員から、EIER の投稿・採択状況、出版業界全体の状況に関する講演が行なわれた。講演内容は多岐に渡っていたが、出版業界の電子化に伴い、以前よりも少ない経費で英文書籍を出版することが可能になったことは特筆すべき事である。

次に佐々木会員から実際に英文ジャーナルに投稿し、採択されるコツが披露された。最初に研究者が英語で論文を執筆することの意味として、(ア) 研究者の義務：知識の発信の義務、(イ) 業績になる、就職に有利、研究資金獲得に有利、(ウ) 世界中の研究者が読んでくれる、の 3 点が挙げられた。そして、実際に英語論文を書き、投稿するプロセスが指南された。論文作成に役立つ書籍の紹介、英文校正の選択、カバーレターの書き方、投稿料、投稿方法の差によるメリット・デメリット、審査スピード、リバ

イズの仕方などが具体的に教授され、参加者にとっては非常に有意義な時間であった。特に掲載確率を挙げるコツとして以下が挙げられたが、これらは若手のみならず、全ての研究者にとっても肝に命じておくべきことであろう。(a) 編集長、編集委員を調べる、(b) 投稿するジャーナルの論文を引用する(門前払いの確率を減らす)、(c) サーヴェイをしっかりと行なう(押さえるべき文献を押さえる。独りよがりではプロの研究者ではない)、(d) イントロダクションで自分の貢献を明確にする(そのためのサーヴェイをしっかりと)、(e) きちんとした書式の論文を書く(数式、図表、脚注、参考文献)。

最後に、英文ジャーナルに掲載されるには時間がかかるため、執筆した英語論文を広く読んでもらい、コメントを貰う方法として、SNSの有効活用が江頭会員と吉井より披露された。具体的には、Research Gate (<https://www.researchgate.net>) や Academia (<http://www.academia.edu/>) などの研究者用 SNS において論文をアップロードしたり、特定のトピックで世界中の研究者と意見交換をすることで、自説アピールの促進につながると考えられる。

## 第VI期第4回理事会記録

理事（事務局）：吉田雅明（専修大学）

進化経済学会 金沢大会 理事会議事録 2014年3月15日 PM12:00-PM1:00

1. 会長挨拶：藤本隆宏会長から、開催校への謝意、厳しい財務状況の改善努力への謝意、経済学が学問的多様性を認める方向で動くこととそれが会勢拡大へとつながることへの希望が述べられた。
2. 大会開催状況報告：開催校瀬尾崇理事より、大会報告数47、事前参加申し込み102名、現時点での参加が約120名であること、若手セミナーは約30名の出席で盛況だった旨報告された。
3. 会勢報告：吉田事務局担当理事より会勢は現在482名であること、各部会活動状況（回覧）が報告された。
4. 会計報告：谷口財務担当理事より会計報告。金沢大会でも支出削減に協力いただいたことへの謝意が述べられた。様々な削減策により財政の危機的状況はひとまず回避できたが、繰越金を維持しつつ予算を立てていくことの重要性が述べられた。（資料参照）
5. 監査報告：服部監査担当理事より監査報告を行なわれ、問題がなかった旨示された。
6. 参照基準対応：日本学術会議で策定が進められている「経済学教育の参照基準」案が、ミクロ・マクロ・統計学を基礎として他は応用というかたちでの経済学教育を想定して作られつつあることに対して、理事会名で提出された意見書を、学会としての意見とする案を明日の総会で諮ることが承認された。
7. EIER 関連：有賀編集長より Vol.10.2 の発行、Vol.11.1 の編集状況について報告された。  
今回は執筆者がオープンアクセス権を買い取ってくれた、藤本先生の寄付のために有料ダウンロード支出分が相殺されたことへの謝意と報告が行われた。また、編集作業上、イレギュラーな事態にも対応できる工程管理（編集進捗表）を実施するための覚書を交換することが承認された。
8. NL 担当変更：ニューズレター担当者が、瀬尾崇会員より上越教育大の吉田昌幸会員に交代する旨報告・承認された。
9. 次回大会開催校：江頭進理事より、次大会は小樽商大にて、北大からの支援を得て行われることが報告・承認された。日程はオータムカンファレンス

9/20、本大会3/21・22である。なお学内アルコール禁止なので、懇親会は学外で。地域電子通貨の使用で2次会。

10. その他：北海道・東北部会の報告が2年分になっている点（代表・西部理事のサバティカルのため）と同部会代表を吉地望会員に交代する旨、報告され承認された。

## 進化経済学会第18回会員総会記録

理事（事務局）：吉田雅明（専修大学）

2014年3月16日 進化経済学会総会記録

1. 宇仁宏幸会員が総会議長に選出された。
2. 藤本隆宏会長から挨拶。学会員の研究の多様性の重要性を確保しつつ、会員拡大につなげる方針を確認。
3. 吉田雅明事務局担当理事より、個人会員数：400、現在全体会員数：486で上昇傾向である旨、会勢報告された。
4. 谷口和久財務担当理事より、2012年度進化経済学会収支報告決算報告と中間報告が行われ、また、来年度予算案が示され承認された。（資料1参照）
5. 事務局担当理事より日本学術会議が策定を進めている「経済学教育に関する参照基準」への学会としてのこれまでの対応が報告され、理事会として提出した意見書を進化経済学会としての意見書とすることが承認された（資料2、3参照）。また、経済学教育学会事務局長でもある大坂洋会員から、非主流派経済学の研究を広く知ってもらうための書籍出版が提案され、協力することが承認された。
6. 有賀裕二 EIER 編集委員長・副会長より、EIER 刊行状況について報告され、また会員が積極的に投稿するよう要請された。Springer 社から刊行される新モノグラフシリーズが紹介された。
7. 瀬尾崇金沢大会実行委員長より、開催校挨拶が行われ、大会128名・懇親会も85名が参加したことが報告され、またJAISTの協力に対する謝意が述べられた。
8. 西部忠会員より、江頭進会員の代理として、次回大会は小樽商科大学で、9/20(オータムカンファレンス)、3/21~22(本大会)の日程で行われることが報告され、また、小樽の街で使える地域通貨TARCAが紹介された。



【資料2】

日本学術会議経済学委員会

樋口美雄委員長 殿

経済学委員会経済学分野の参照基準検討分科会

岩本康志委員長 殿

進化経済学会は、日本学術会議経済学委員会分科会で策定の作業を進められておられます「経済学分野の参照基準」の第三次素案修正案を拝見し、我が国の経済学の将来に関して少なからぬ危惧を抱いております。

まず、参照基準の基調をなす第二節「経済学分野の定義」において、以前の素案にあった L.ロビンズによる定義は外されこそしましたが、希少な資源を代替的な用途に合理的に配分する人間像を土台とした経済学を構築することは、経済学として自明なこととされている点は変わりありません。もしも参照基準に求められることが、新古典派経済学を教えるためのカリキュラムのもとを作ることならば、それでも問題はないかもしれません。しかし、求められているのは、我が国の経済学の将来を担う層を育てるための経済学教育の参照基準であります。経済学の未来の可能性を、いかに現在有力とはいえ1つのフレームワーク内に閉じ込めてしまい、多様性の芽を摘み取ってしまえば、与えられた練習問題を器用に解く世代を生み出しても、フレームワークそのものを含めて新しい経済科学の大地を耕すような世代を生み出すことはなくなります。

それに続く第三節「経済学に固有の特性」におきましても、いくつかの違和感を禁じえません。「(1)経済学の方法」では、経済学が「実際のデータに基づいて当初の仮説の適否を論理的・統計的に検証するという、本省科学性に基づいた科学的手法」を用いていると書かれていますが、これは科学哲学から見ればきわめて古風な無理解としか思えません。この点は第四節(2)で、演繹・帰納と並べて論じられている部分で再び強調されています。機能「経済的なインセンティブに反応することが基本的な原理」と言い切り、それ以上は基本をふまえた拡張としてのみ理解しようという論調、さらに「市場メカニズムの有用性が世界の共通認識」であるから「経済学のこの特性は重要」という正当化は前節の論調をさらに際立たせています。社会のあるべき姿はパレート基準で測ることができると、経済学は本当に合意しているのでしょうか。「(2)経済学の体系」では、さらにはっきりと経済学の基礎理論としてミクロ経済学とマクロ経済学をおき、それ以上は応用と位置づけており、続く「(3)経済学の固有の問題点」では、制度分析や歴史分析には「標準的な理論的アプローチ」を軽視していることが問題として、それらをミクロ経済学・マクロ経済学の基礎の上にかに統合するかを課題とし、経済統計やゲーム理論の適用によって統合する例が紹介されています。ここまでくると、経済学の歴史を、まるで経済学が従前の理論を包括的に取り込み、修正し、精緻化して進んでいく単線的な進化過程と見なしておられるのではないかと不安を覚えます。制度分析、歴史分析に数量分析が不足しているならば、それぞれの目的にとって適切な数量分析が開発されればよいはずで、それがミクロ・マクロ経済学の応用である論理的必然性などはありません。現在主流となっている経済学の土台を含めて、様々な経済学を俯瞰したところに立つメタ学問としての性質を持つ経済学説史が、1学派の応用分野になり下がったとき、はたしてその経済学説史に学問としての生命力は残されているのでしょうか。

続く第四節「経済学を学ぶすべての学生が身に付けることを目指すべき基本的な素養」の(1)ではこれまでの主張がさらに強められ、「社会人」の常識として「利己的・機会主義的経済主体を前提として、経済システム、特に資本主義的市場経済システムを経済学理的観点から論理的に分析する」ことを求めています。理解できない場合には「日常生活を営むにあたってさまざまな不利益を受ける危険がある」とまで述べておられます。そして「一般職業人」の日常生活や意思決定に役立つものとして、ミクロ経済学の練習問題として頻出するトピックを具体的に挙げておられます。経済学の内部からみてさえ特殊なアプローチが社会人の実践的常識であると言い切ることへの違和感を禁じえません。この節の(2)ではコミュニケーション能力に言及し、末尾には「さまざまな経済事情や異文化理解し、異なる価値観を受け入れ、世界全体の発展のために市民として果たす役割」にも言及されていますが、様々な問題を「経済学の多くが解いている制約条件付最適化問題」と理解してしまうことの狭隘さが、コミュニケーションや異文化理解の妨げになるとはお考えにならない

いのでしょうか。

第六節の最後にこの参照基準が「経済学を専攻せずに教養として経済学を学ぶ学生が獲得すべき経済学の基本的な知識と理解ともなるべきもの」と明言されているのに対し、上のような内容は、極めて進路限定的ではないのでしょうか。

環境とその変化のありかたを見渡すことができない人間にとって、また人類の学問にとって、多様性こそ新たな適応と進化の源泉であります。我が国の経済学をめぐる環境は、幸いなことにこれまで多様性の土壌を維持してきたように思います。ただでさえ様々な面で厳しくなっている学問追求の環境を、自分たちの手で悪化させる愚は避けるべきです。どうかすでに枯れかけた他国の基準を参照して我が国の大学教育の豊かな土壌を損なうことのないよう、慎重なご配慮をお願いいたします。

経済学を行き止まりの学問にしてはなりません。

### 【資料3】

日本学術会議経済学分野の参照基準検討分科会委員長 岩本康志殿

参照基準 2 月 25 日版への意見書

進化経済学会

参照基準の前の版（第3次素案修正案）を見て、われわれはロビンズ由来の、希少な資源を代替的な用途に合理的に配分する人間及びその社会像を土台とする経済学を自明とし、それ以外を排除する姿勢に少なからぬ危惧を抱き、異見を表明した。それは今回の改訂版では解消されたのであろうか。

「経済学の定義」では、「利用できる資源が有限である世界において、人間がさまざまな財を消費して生活を営もうとするとき、人々により豊かな生活を実現させるためには有限な資源をどのように利用していくのか」とあるように経済学の取り組むべき基本問題を提示する姿勢は変わっていない。しかし、「このような問題を考えることも…重要な問題」と表現は譲歩的になり、続く段落で、扱う対象として主体行動と相互作用の帰結に加え、不況、失業、貧困等の問題を挙げ、「経済学の歴史のなかで先達の用いたアプローチは様々であり、提示される解決策は必ずしも同じではない」とされるように、現在の主流のアプローチ以外への配慮が見られるようになった。これを評価してよいのか、あるいは、ただ表現がぼかされただけとみるべきか。はたして実質的参照基準が記された3節「経済学の固有の特性」・4節「経済学を学ぶすべての学生が身に付けることを目指すべき基本的な素養」は、本当に変わったのだろうか。

3節・4節を見れば、たしかに断定的・排除的な表現は抑制されている。そして非主流のアプローチが有用となる余地を認めるような表現も入れられている。しかし問題は、それが実質的改善なのかどうかである。

3節(1)「経済学の方法」を、経済学の多くの領域は、数値データを扱うモデル分析に依っており、それにはミクロ的手法とマクロ的手法、そして両者を補い統合する含みもあるゲーム理論がある、ということである、とまとめてしまえば、じつに前回と何も変わらない。しかし残念ながら主旨はそのようにしか見えない。なるほど、非主流的アプローチの余地は、「数値データだけでは問題を的確に把握できない場合も多い。この場合、制度的あるいは歴史的背景から問題点を明らかにしようとする手法も使われる」として言及されている。ただし、上述のように「経済学の多くの領域は、いろいろな経済行為を数値化する前者のアプローチをとる」と続けられる。

ここには、数値データを扱うモデル＝主流的アプローチ、という信念が感じられる。

3節(2)「経済学の現状と発展の可能性」にあっても、非主流的アプローチに含みを持たせる言及はある。「第一に、現代の経済理論の多くは、市場経済に基づいた先進国経済を前提」としているが、「対象とする経済や現象によっては、その歴史的段階や背景となる社会制度を十分に考慮して適用する必要がある」し、「現代の経済制度自体、その長所と欠陥を本質的かつ歴史的に理解するためには、歴史的アプローチや制度的アプローチを活用することが有用である」という箇所である。しかしここには、市場経済に基づいた先進国経済を分析できるのは主流的アプローチという信念が感じられる。

同節で、「第四に、現実の経済現象に対して異なる（場合によっては全く相反する）多くの理論的説明が併存することが多い」として、一見、非主流的アプローチに含みをもたせたかのように見える箇所があるが、それは「理論の妥当性を検証する実証分析の検定力が弱い」からであって、「理論に対する検定力も次第に強化されつつある」と結ばれている。

4節(1)の「社会人の常識としての経済学の基本問題と理解」に挙げられている、経済学を専門に学ばない一般の学生にとっても課題となる問題の具体例の中には、歴史・制度への理解や経済学自体の歴史への言及が取り入れられている点は評価できるが、それはあくまで社会人が「たとえば」直面する問題の例であって、「こうした知識と理解を持って就業して収入を得、各種の財・サービスを購入して消費するとすれば、人々

はより充実した日常生活・社会生活を送ることができる」と結ばれてしまう。

そして、7ページ以降の「すべての学生が獲得すべき基本的な知識」の具体例として挙げられているのは、前版のラインアップー {部分均衡分析と一般均衡分析+比較静学分析} +市場経済システム、である。「市場経済システム」として、封建制と対比した資本主義経済システムへの言及があるのは評価できるだろう。

さて、もとの問題に帰ろう。最新改訂版は実質的改善か否か。

われわれが、多様性こそ学としての経済学の豊かな土壌になると主張する際の「多様性」とは、理論構築の方向を決めるアプローチ自体の多様性を意味している。経済学史はその意味での多様性の宝庫である。そして理論が構築され、展開され、応用と実証モデルが開発されてはじめて、整備されたデータとのマッチングが行われるのであって、数値データによって検証されるのは実証モデルであって基本的なアプローチそのものではないことは、科学哲学の素養があれば理解しやすい認識ではないだろうか。数値データを扱うモデル=主流派アプローチという信念や、データによる検証を経れば理論は収束するという楽観的な予測に、われわれが不信感を抱く根拠はここにある。対象のオプションを増やしても、教え込まれるアプローチが1つであれば基本的な発想の豊かさを育てることはできない。グローバルなコミュニケーションにおいて真に問われるのは、同じ発想で対象を語り合うことではなく、異なる発想を含めて語り合う能力である。

もちろん基礎知識の「例」の末席に非主流的アプローチの余地が設けられたことは評価しよう。とりまとめのご苦労も想像に難くない。しかし経済学の将来を支える教育の参照基準をより深く、本当に考えるのであれば、基準策定の発想のレベルにまで踏み込んでいただきたい。

岩本委員長は3月12日の慶應大学でのシンポジウムにおいて、参照基準が体系性、一貫性を持って書かれていないと、他分野から経済学が体系性、一貫性をもたない分野であるかのように思われかねない旨の発言をされたが、経済学が経済社会を捉えようとする基本的なアプローチはいくつかあることを述べたうえで、主流のアプローチはこれこれであって、このような理論展開を行っているのだ、と述べるならば、参照基準の記述の体系性、一貫性が損なわれることはない。具体的には「経済学の現状と発展の可能性」の節における表現の工夫、また、「日常生活や意思決定や職業人としての活動に役立たせることができるようなより一般性のある」概念の例を主流派概念だけからの採用とならないようにする工夫があれば望ましいと考える。

参照基準は教育の標準化・画一化を図るものではない、という「意図」は十分受け止めているが、提示された参照基準が将来持つであろう「効果」にもぜひご配慮いただき、意見表明している各学会がほぼ共通して望んでいる基本的アプローチの多様性への言及が盛り込まれることを進化経済学会は切望する。

## 学会費納入についてのお知らせ

理事(会計):谷口和久(近畿大学)

1. 振込先の口座番号を下に記載致しました。学会のHPに掲載した場合、不特定多数の目に触れ悪用される懸念もあるのでニュースレターにのみ掲載いたします。

銀行名：ゆうちょ銀行(金融機関コード 9900、店番 109)、預金種目 当座  
店名：一〇九 店(イチゼロキユウ店)、口座番号 0022493 口座名義：進化経済学会

2. 原則として、学会の年会費は学会事務局から郵送される「振込票」を使って振込してください。納めていただいたチェックがもっとも簡便にかつ確実にできるからです。
3. 「振込票」の紛失など、やむを得ず民間金融機関からのオンラインバンキング(インターネットバンキング)を利用して送金される場合は、メールにて振込をした旨の連絡を必ずお願いします。その際、「氏名」「所属」を必ず記載してください。
4. 振込期限は7月末です。納入期限を過ぎましても郵便振替用紙はご利用になれますが、督促状の発送をおこなうためのよけいな費用がかかります。期限までに納めてくださいますようお願いいたします。
5. 2013年度より会員種別と会費は次のようになっています。詳細は会則(2013年3月改訂)をご覧ください。

個人正会員 10,000円、個人終身正会員 50,000円、学生(院生)会員 5,000円 賛助会員 50,000円、  
個人準会員 2,000円

会則《付則》の第7、8項より

7. 個人正会員は、63歳を越えた最初の年度より会費5万円を一括納入することで個人終身正会員となることができる。個人終身正会員は会費納入を免除される。個人終身正会員を希望する会員は別に定める「個人終身正会員登録申請書」を学会理事会に提出しなければならない。

8. 個人正会員は、大学院等に在籍する学生およびそれに準じる研究者である場合、申請によって学生(院生)会員となることができる。学生(院生)会員は会費が半額に減免される。学生(院生)会員を希望する会員は別に定める「学会費減免申請書」を学会理事会に提出しなければならない。

本件にかんするお問合せ先:

〒169-0075

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

進化経済学会事務局

Tel : 03-5389-6493、Fax : 03-3368-2822

E-mail : evoeco-post@bunken.co.jp

## 2013年度部会報告

### ■「制度と統治部会」部会報告

2013年度、あらたに承認された本部会は、当該年度において、合計4回の研究会を以下のような形式にて開催したので、ここに報告する。

#### ●第1回

日時：5月25日(土)13時~17時

場所：阪南大学 淀屋橋サテライトオフィス

報告内容

1. 立見淳哉氏(大阪市立大学)

「グローバル化、格差、コミュニティコンヴァンション理論を通じた展望—」

2. 北川巨太氏(京都大学大学院)

「コモングの適正な価値論の今日的意義——適正な価値と割当取引の関係を中心に——」

部会立ち上げの研究会であったので、上記報告に加えて、今後の運営方針なども含めて様々な論点を検討した。

#### ●第2回

第2回研究会は、二日にわたって開催された。

開催場所：新潟大学 経済学部 第一共同研究室 (経済学部棟 D345)

9月13日 午後(14:00~18:00)

第一報告：服部茂幸氏(福井県立大学)「新著『新自由主義の帰結』(岩波新書)の紹介」

第二報告：中原隆幸氏(阪南大学)「服部茂幸著『新自由主義の帰結』を評する」

第三報告：宇仁宏幸氏(京都大学)「J.R. コモングの累積的因果連関概念」

9月14日 午前(10:00~12:30)

第一報告：石田葉月氏(福島大学)「化石燃料と経済成長」

第二報告：巖 成男氏(新潟大学)「原発誘致と地域経済発展—脱原発以降の原発立地地域の経済を考える」

地方開催にもかかわらず、多くの会員に参加いただいた。特に、原発問題を今後のエネルギー政策と絡めて議論された二日目の報告に対して、参加者から多くの意見が寄せられた。

#### ●第3回

日時 12月7日(土) 13:00~17:00

テーマ「『資本主義の新たな精神』を読む」

場所：大学コンソーシアム大阪 キャンパスポート 大阪4F(大阪駅前第二ビル4F)

第一部「訳者による解説」

第一報告 三浦直希氏(上智大学(非))・第二報告 川野英二氏(大阪市立大学)

第三報告 白鳥義彦氏(神戸大学)

第二部 『資本主義の新たな精神』へのコメント

第一報告 若森章孝氏(関西大学)「『資本主義の新たな精神』をどう読むのか」

第二報告 宮本光晴氏(専修大学)「日本資本主義の新たな精神」

コンヴァンション理論の集大成である『資本主義の新たな精神』の合評会であった。当初の予想を超えて、経済学者だけでなく、社会学者も多く参加され、予約した教室では席が足らなくなるほどの参加者を得ることが出来た。

#### ●第4回

日時：2月28日(金) 14時~18時

場所：大阪市立大学梅田サテライトキャンパス 第1教室(大阪駅前第二ビル6F)

報告者(五十音順)

大田一廣氏(阪南大学)「エコノミーの系譜学 百科全書を中心に」

斉藤日出治氏(大阪産業大学)「市民社会と政治」第4回研究会は、本部会の創設メンバーでもある、大田一廣氏と斎藤日出治氏の退職記念講演として開催された。そのため、多数の参加者に恵まれ、質疑応答もきわめて活発に為された。

なお、第3回研究会の報告者に非学会員が含まれていたため、その報告者に対して部会より交通費を支給した。

次年度も、できる限り数多くの研究会を開催してゆきたいと考えている。

文責：中原隆幸(阪南大学)

### ■「現代日本の経済制度」部会報告

#### ●第1回研究会

(科研費プロジェクト「国際生産ショック後の東アジア産業システムと企業システムの進化的多様性」との共催)

日時：2013年7月14日(日) 13:00~17:00

場所：京都大学法経東館8階リフレッシュルーム

内容：

1) 遠山弘徳(静岡大学)・原田裕治(福山市立大学)「東アジア資本主義の多様性研究の現状——Witt & Redding(2013)論文を中心に」

(2) 山田鋭夫(名古屋大学・名)「東アジア資本主義の多様性研究の現状——Walter & Zhang(2012)の紹介」

(3) 植村博恭(横浜国立大学)「Diversity and Transformations of Asian Capitalisms から「転換期のアジア資本主義」へ——論点の整理」

(4) 宇仁宏幸(京都大学)・磯谷明德(九州大学)：

## 総括的コメント

### ● 第 2 回 研究会 : Evolving Diversity of Capitalisms and Firms: Asia and Europe

(科研費プロジェクト「国際生産ショック後の東アジア産業システムと企業システムの進化的多様性」との共催)

日時: 2013年12月15日(日) 10—17時

場所: 桜木町ランドマークタワー18F 横浜国立大学みなとみらいキャンパス

内容 (使用言語: 英語)

(1) 原田裕治 (福山市立大学) 「アジア資本主義の多様性と企業の異質性」

(2) ヒュー・ウィッタッカー (オークランド大学)  
"Is Entrepreneurship Changing in Japan?"  
コメンテータ: 磯谷明德 (九州大学) / 徳丸宣穂 (名古屋工業大学)

(3) ブルーノ・アマール (パリ第1大学)  
"Counter-cyclical Budget Policy across Varieties of Capitalism"  
コメンテータ: 植村博恭 (横浜国立大学)

(4) 磯谷明德 (九州大学)・植村博恭 (横浜国立大学)・西洋 (阪南大学)  
「東アジア資本主義の制度的階層性とマクロ経済的多様性」

コメンテータ: 山田鋭夫 (名古屋大学)

コーディネータ: 植村博恭 (横浜国立大学アジア経済社会研究センター)

文責: 原田裕治 (福山市立大学)

### ■ 「観光学研究部会」部会報告

#### ● 第 18 回研究会

日時 2013年7月21日(金)

場所 長崎大学環境科学部本館4階「学系セミナー室」

嘉村友里恵(長崎大学・院) “山村留学における子どもと地域コミュニティのかかわり”

深見聡(長崎大学) “地域に根ざしたジオ・ツーリズムとは”

#### ● 第 19 回研究会

日時 2013年9月15日(日)

場所 GACCOH <http://www.gaccoh.jp/>

井出明 (追手門学院大学) “チェルノブイリ・ダークツーリズム・ガイド” を読む”

李良姫 (東亜大学) “植民地経験の観光資源化”

#### ● 第 20 回研究会

日時 2013年9月15日(日)

場所 情報セキュリティ大学院大学

【招待講演】湯浅 塾道 (情報セキュリティ大学院大学) “タクシーのプライバシーと個人情報保護に関する諸問題”

徳久倫康 (ゲンロン) “「福島第一原発観光地化計画」の一年”

#### ● 第 21 回研究会

日時 2014年3月14日(金)

場所 金沢市文化ホール

【招待講演】木下浩之(金沢市) “金沢のまちづくりと観光”

2014年度からは、運営体制が一部変更され、主査は深見聡(長崎大)、幹事は佐々木一彰(日大)、井出明(追大)、出口竜也(和太:新任)の布陣で活動していくことになった。2014年度は、7月東京、9月札幌または小樽、11月大阪、翌年3月札幌または小樽の予定で研究会を開催する予定である。発表希望者は、研究会ホームページ「観光学研究部会」で検索)

<https://sites.google.com/site/evolutionandtourism/>

からお気軽に問い合わせいただきたい。

文責: 井出明 (追手門学院大学)

### ■ 「九州部会」部会報告

H25年1月25日に、九州産業大学経済学部において部会研究会を開催いたしました。

報告者と論題:

#### 第1報告

報告者 藪田竜之介氏 (佐賀大学経済学部)

論 題 正規労働と非正規労働の賃金決定制度の差異を考慮したカレツキア  
ン・モデル

#### 第2報告

報告者 石塚史樹氏 (西南大学経済学部)

論 題 ドイツ大規模企業経営者の歴史的変容

文責: 岡村東洋光 (九州産業大学)

### ■ 「非線形問題研究部会」部会報告

●以下開催した研究会はすべて中央大学企業研究所公開研究会(現代社会経済危機と複雑系企業システム・チーム主査・有賀裕二)と非線形問題研究部会との共催の形式で開催された。この研究会のすべては、塩沢由典教授の中央大学退職記念号作成の共同研究の場として企画され、その成果は、塩沢由典・有賀裕二編著『経済学を立て直す—進化経済学と古典派価値論—』(中央大学企業研究草書)として2014年3月に上梓された。

1. 日時 2013年4月4日(木)  
14時00分～17時00分  
場所 多摩校舎2館4階第2会議室  
第1報告 塩沢 由典 研究員(商学部教授)  
「古典派価値論の欠落と国際貿易理論」  
第2報告 吉井 哲氏  
(名古屋商科大学経済学部准教授)  
「アダム・スミスは、絶対生産費論者だったのか」
2. 日時 2013年4月20日(土)  
15時00分～18時00分  
場所 多摩校舎2号館4階 研究所会議室1  
第一報告 塩沢 由典 研究員(商学部教授)  
「新しい国際価値論とその適用例」  
第二報告 横川 信治氏  
(武蔵大学経済学部経済学科教授)  
「アジアの再台頭と新しい世界システム  
—The Renaissance of Asia and the  
Emerging World System—」
3. 日時 2013年4月27日(土)  
14時00分～18時00分  
場所 多摩校舎2号館4階 研究所会議室2  
第一報告 塩沢 由典 研究員(商学部教授)  
「産業革命、技術革新、実質賃金」  
第二報告 玉木 俊明氏  
(京都産業大学経済学部教授)  
「産業革命と国家・商人・国際機関との  
関係—見えざる手から見える手へ—」
4. 日時 2013年6月27日(木)  
14時00分～17時00分  
場所 多摩校舎2号館4階 研究所会議室1  
第一報告 瀧澤 弘和 研究員(経済学部教授)  
「モデル科学としての経済学  
:J.S.ミルの経済学方法論に触れながら」  
第二報告 塩沢 由典 研究員(商学部教授)  
「経済学の進歩とは何か  
:理論におけるブルークスルーのために」
5. 日時 2013年7月27日(土)  
15時00分～18時00分  
場所 多摩校舎2号館4階 研究所会議室1  
第一報告 塩沢 由典 研究員(商学部教授)  
「生産関数」概念批判/ウィクスティード  
からコブ=ダグス・CESまで」  
第二報告 井上 義朗 研究員(商学部教授)  
「P.H.ウィクスティードという経済学者/  
「資産配分」の原意について考える」

6. 日時 2013年8月3日(土) 15時00分  
～18時00分  
場所 多摩校舎2号館4階 研究所会議室1  
第一報告 有賀 裕二 研究員(商学部教授)  
「ネットワーク分析と産業連関表」  
第二報告 浅田 統一郎 研究員(経済学部教授)  
「リカードの差額地代論の数学モデルに  
ついて」
7. 日時 2013年9月7日(土)  
14時00分～17時00分  
場所 多摩校舎2号館11階 21141号室  
第一報告(14時～15時)  
吉井 哲氏(名古屋商科大学経済学部准教授)  
「価格と数量の同時決定体系への転換  
～生産から供給へ～」  
第二報告(15時～16時)  
植村 博恭氏  
(横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授)  
「「雁行形態発展論」と東アジア国際生産・貿易ネ  
ットワーク」  
討論(16時～17時)
8. 進化経済学に関するミニ・シンポジウム  
進化経済学に関するミニ・シンポジウム(I)  
主催 中央大学企業研究所公開研究会  
日時 2014年3月7日(金) 14:00-17:00  
場所 中央大学多摩キャンパス2号館4階会議室  
テーマ 経済学を再建する  
講師  
植村博恭(横浜国立大学)  
横川信治(武蔵大学)  
吉井哲(名古屋商科大学)
- コメンテータ  
佐藤良一(法政大学) ほか
- 進化経済学に関するミニ・シンポジウム(II)  
主催 中央大学企業研究所公開研究会  
日時 2014年3月8日(土) 10:00-16:00  
場所 中央大学多摩キャンパス2号館4階会議室  
テーマ 産業革命を再評価する/  
グローバル経済史と進化経済学  
講師 塩沢由典(中央大学商学部) 趣旨説明  
講師 佐武弘章(福井県立大学名誉教授)  
「『資本論』を読み直す」  
講師 石山嘉英(千葉商科大学政策情報学部教授)  
「イギリス産業革命をめぐるいくつかの論点、  
何が主要問題なのか」

講師 杉原薫(政策研究大学院大学教授)

「勤勉革命と工業化の世界史：  
東アジアの位置づけをめぐって」

文責：有賀裕二（中央大学）

## 第19回進化経済学会北海道大会(小樽商科大学)・オータムカンファレンスアナウンス

本年度で19回目を数える進化経済学会は、小樽商科大学で開催いたします。

本年度のテーマは「退行的進化を考える」です。

現在の日本を含めた先進国経済は、成長一本槍から、より多様なあり方を考えるべき時にさしかかっています。特に地方では、人口減少や高齢化とともに以下に街の機能を維持し、生活の質を維持したまま、規模を縮小するか、ということを考えるスマートシュリンクなども真剣に議論され始めています。

また、「退行的進化」という言葉には別の解釈もできるでしょう。生物の発生過程で、各器官を生成するときに重要な役割を果たす「アポトーシス」は、経済、経営など様々な分野でアナロジーとして用いることができる概念です。つまり、「退行的進化」は、その用語のもついささか「先祖返り」といったネガティブな趣とは異なり、社会の進化プロセスの中で欠くことのできない意味を含んでいます。しかし、既存の経済学では、成長はともかく、社会の退行的進化を扱うことは、おそらくできないでしょう。

現在、大会実行委員会を組織し、本年9月と来年3月に向けて準備を進めています。遠距離になりますが、盛会となりますよう皆様のご協力をお願いします。

第19回北海道大会(小樽商科大学)実行委員長  
江頭進

テーマ：「退行的進化を考える」

オータムカンファレンス

日時：2014年9月20日(土)

会場：未定(小樽市内)

本大会

日時：2015年3月21(土)、22日(日)

会場：小樽商科大学

報告申し込みに関しましては、7月頃にevoeco\_japan\_newにて告知します。

## 会員異動

### 1. 新規入会者

会員名	フリガナ		所属一機関名	推薦会員（敬称略）
村上 裕	Murakami	Hiroshi	首都大学東京大学院 社会科学研究科 経営学専攻	若森章孝、若森みどり
井上 寛康	Inoue	Hiroyasu	大阪産業大学 経営学部	青山秀明 有賀裕二
室井 遥	Muroi	Haruka	東京大学総合文化研究科国際社会科学 専攻	丸山真人、柴田徳太郎
牛澤 隆司	Ushizawa	Ryuji		西部忠、舛田佳弘
嶋野 智仁	Shimano	Norihito	京都大学大学院経済学研究科博士後期 課程	佐々木啓明、宇仁宏幸
高野 宏康	Takano	Hiroyasu	小樽商科大学	江頭進、井出明
平方 裕久	Hirakata	Yasuhisa	九州産業大学経済学部	磯谷明德、岡村東洋光
王 佳	Ou	Ka	九州大学経済学府博士後期課程	植村博恭、磯谷明德
金谷 義弘	Kanaya	Yoshihiro	宮崎大学 教育文化学部 経済学研究室	八木紀一郎、吉田雅昭
菊地 真	Kikuchi	Makoto	北海道大学 経済学研究科 博士後期1 年	西部忠、舛田佳弘
韓 載香	Han	Jaehyang	北海道大学大学院経済学研究科	西部忠、篠田朝也
佐藤 了	Sato	Ryo	The Node Consulting 株式会社	井出明、竹岡良輔
山本 健兒	Yamamoto	Kenji	九州大学経済学研究院	塩沢由典、磯谷明德
石田 教子	Ishida	Noriko	日本大学経済学部	八木紀一郎、塩沢由典
古谷 眞介	Furuya	Shinsuke	大阪産業大学経済学部経済学科	吉田雅明、小川一仁
石塚 史樹	Ishizuka	Fumiki	西南学院大学	中川淳平、吉田雅明
新里 泰孝	Niizato	Yasutaka	富山大学経済学部	吉田雅明、有賀裕二

## 2. 名簿訂正

会員名	変更箇所	住所／種別	(TEL)/FAX/(e-mail)	所属名
高橋 真悟	自宅住所			
都築 栄司	自宅住所・所属先			千葉経済大学経済学部経済学科
鈴木 信貴	所属先			国立大学法人 長岡技術科学大学 経営情報系
吉地 望	所属先			北海道武蔵女子短期大学 経済学科
若林 隆久	種別・所属先			高崎経済大学 地域政策学部 地域政策学科
神崎 稔章	所属先			公立大学法人 尾道市立大学 経済情報学部経済情報学科
原谷 直樹	種別・自宅・所属先			群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部
吉野 裕介	種別・所属先			中京大学経済学部
野崎 道哉	自宅住所			
李 征	自宅住所			
宮崎 久美子	自宅住所			
辻野 正訓	自宅住所			
谷口 和久	種別			
松尾 匡	連絡先			立命館大学経済学部
塩沢 由典	自宅住所			
平野 泰朗	自宅住所			
高橋 浩	自宅住所			
武谷 光	種別			
表 弘一郎	種別			
高野 直樹	種別			

## 編集後記

No. 36 の配信が諸般の事情により予定よりも遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

今号からニュースレターの編集を瀬尾崇（金沢大学）会員から引き継がせていただくこととなりました。前担当者に引き続き、各部会の担当者の方々、理事会および学会事務局の方々にご協力いただきお礼申し上げます。また、今後ともご協力下さいますようよろしくお願い申し上げます。

表紙の写真は今年4月に新潟県上越市で開催された「100 万人観桜会」の時の高田城です。今年には上越市で高田城開府400年の記念イベントが多数開催される予定となっています。10月には地元蔵元が参加する「越後謙信 SAKE 祭り」なども開催されます。お近くの方はどうぞおいで下さい。

最後になりましたが、ニュースレターに関するご意見等ございましたらお寄せいただくと幸いです。

ニュースレター編集担当：吉田 昌幸（上越教育大学）